

## 1 | ハンガリー評価書（案）－変更箇所抜粋－

## 2 | 侵入リスクのレベルの評価

3 | ハンガリーからの回答書に基づき、侵入リスクのレベルの評価を行った結果、  
4 | 生体牛については、1986～1990年が英国換算で9.1となり、侵入リスクは「非  
5 | 常に低い」と考えられた。同様に1991～1995年は306.7で「高い」、1996～2000  
6 | 年は134.6で「高い」、2001～2005年は632.8で「高い」、2006年以降は48.1  
7 | で「中程度」と考えられた。一方、貿易統計に基づき侵入リスクのレベルの評  
8 | 価を行った場合は、1986～1990年が英国換算で0となり「無視できる」、1991  
9 | ～1995年は8.0で「非常に低い」、1996～2000年は134.6で「高い」、2001～  
10 | 2005年は624.2で「高い」、2006年以降が114.3で「高い」と考えられた。2006  
11 | 年以降については、回答書と貿易統計で数値が大きく異なり、貿易統計を用い  
12 | た場合の方が、侵入リスクのレベルが高くなった。この主な原因は、スロバキ  
13 | アから輸入された生体牛の頭数の違いによる（回答書では4,527頭、貿易統計  
14 | では96,539頭）。スロバキアからの生体牛の輸出頭数は、貿易統計によると、  
15 | 2002年は1,783頭、2003年は2,795頭、2004年は2,399頭、2005年は6,619  
16 | 頭となっているが、2006年は96,539頭と、過去4年間と比較して著しく増加  
17 | している。しかし、ハンガリーの牛の飼養頭数（806,364頭：2005年、802,808  
18 | 頭：2006年、796,814頭：2007年）及びと畜頭数（125,840頭：2006年）を  
19 | 考慮すると、貿易統計で記載された2006年のスロバキアからハンガリーへの輸  
20 | 出頭数が、すべてハンガリーへ輸入後飼養・と畜されたとは考え難い。また、  
21 | EU統計局によるデータを確認した結果では、2006年のスロバキアからハンガ  
22 | リーへの輸出頭数は貿易統計と一致し96,538頭と記載されており、貿易統計  
23 | と一致していたが、一方でハンガリーのスロバキアからの輸入頭数は2,341頭  
24 | でありと記載されており、EU統計局のデータ内においても大きな差異があった。  
25 | このように、2006年については貿易統計の輸出データとハンガリーの回答書の  
26 | 数値及びEU統計局の輸入統計とでは明らかな乖離があり、その原因の一つと  
27 | しては、トランジット（ハンガリーを通り他国へ輸送されるケース）等貿易上  
28 | の統計処理の問題等の可能性も考えられた。この理由として、今回用いた貿易  
29 | 統計は輸出統計であり、統計の性質上トランジット（ハンガリーを通り他国へ  
30 | 輸送されるケース）等を含む場合があるため、ハンガリーへの実質の輸出では  
31 | ない場合であっても、ハンガリーとスロバキアの地理的関係を勘案すると統計  
32 | 上はハンガリーへの輸出頭数として計上される可能性が考えられた。

33 | 以上の点を考慮すると、スロバキアからの生体牛の輸入頭数については、貿  
34 | 易統計よりも、EU統計局の輸入頭数の数値に近いハンガリー当局の回答を用い  
35 | る方が妥当であると考えられることから、回答書に基づいて評価を行った。

36 | また、肉骨粉については、1986～1990年が英国換算で328.6となり、侵入リ  
37 | スクは「高い」と考えられた。同様に1991～1995年は182.5で「高い」、1996  
38 | ～2000年は319.7で「高い」、2001～2005年は136.5で「高い」となった。2004

1 年以降については、前述の理由により、輸入量のデータは入手出来なかった。  
2 一方、貿易統計に基づき侵入リスクのレベルの評価を行った場合は、1986～1990  
3 年が英国換算で 90.0 となり「中程度」、1991～1995 年が 100.3 で「高い」、1996  
4 ～2000 年が 745.8 で「高い」、2001～2005 年が 670.8 で「高い」、2006 年以降  
5 が 28.7 で「中程度」と考えられた。1986～2003 年までの期間については、回  
6 答書と貿易統計で一部数字が異なる点もあるが、侵入リスクのレベルが回答書  
7 の数字を用いた場合より高くなることはなかったので、回答書に基づいて評価  
8 を行った。また、2004 年以降は、回答書でデータが入手出来なかったことから、  
9 貿易統計に基づいて評価を行った。

10 以上より、輸入生体牛及び肉骨粉の組み合わせにより生じた全体の侵入リス  
11 クは、1986～2005 年は「高い」、2006 年以降は「中程度」と考えられた。

12